

ICT 活用事例⑦～番外編～

アーツ ARCS 動機づけモデルを使って学生の学習意欲を高めよう!

～授業を自己チェックして授業設計にひと工夫を加えよう～

今回ご紹介する ARCS (アーツ) 動機づけモデルは、インストラクショナル・デザイン (ID※) の理論の一つで、学習意欲を高めるための方策を、注意 Attention・関連性 Relevance・自信 Confidence・満足感 Satisfaction の 4 つに整理したものです。その 4 つの頭文字から、ARCS 動機づけモデルと呼ばれています。

※ID はアメリカで 1940 年代後半から、教育の効果・効率・魅力を高めるための方法論（システム的アプローチ）として開発され続けてきました。日本でも授業設計や教材開発、研修等で活用されています。

こんなお悩みはありませんか？



学生の学習意欲を引き出すためにいろいろと考え、授業準備に時間かけているのに、思ったように効果がない。学生が集中していない…。



Check A Attention 注意：おもしろそう！

ものごとを始める際に、興味を与えるようなことが起きると「楽しそうだな」「やってみたい!」「いつも何か違う!」と関心・好奇心が集まり「もっと知りたい」「どうしてだろう」など意欲が高まってきます。注意の側面を満たすことが学びを援助する第一歩となります。

A-1 知覚的喚起 (目をぱっちり開けさせる)

- 授業や研修のオープニングでひと工夫し、注意を引いているか？

OK / NG

A-2 探求心の喚起 (好奇心を大切にする)

- エピソードなどを混ぜて、教材の内容が奥深いことを知らせているか？
- 今までに習ったことや思っていたことの矛盾点、先入観を鋭く指摘をしているか？

OK / NG

A-3 変化性 (マンネリを避ける)

- 授業の全体像がわかる見取り図、メニュー、目次をつけているか？
- 飽きる前にブレイクタイムを入れ、気分転換を図っているか？

OK / NG



Check C Confidence 自信：やればできそう！

やりがいを感じ、ものごとを進めた場合も、問題などにぶつかった時、「自分には無理」と思ってしまうと、そこで挫折してしまいます。「やれば何とかできる」という成功への期待感をもたせ、チャレンジ精神をくすぐることが大切です。

C-1 学習要求 (ゴールインテープをはる)

- 本題に入る前にあらかじめゴールを明示し、どこに向かって努力するのかを意識させているか？

OK / NG

C-2 成功の機会 (一步ずつ確かめて進ませる)

- 他人との比較ではなく、過去の自分との比較で進歩を確かめられるようにしているか？

OK / NG

C-3 コントロールの個人化 (コントロールさせる)

- 身につけ方のアドバイスを与え、それを参考にして自分独自のやり方でも良いことを告げているか？

OK / NG



上手くいかない理由を ARCS 動機づけモデルの 4 つの側面からチェックし、授業設計の中で足りない部分を明確にした上で方策を立てると効果的です。下記のチェック欄で、授業設計内容を、確認してみましょう。

各項目を読みながら、「OK」「NG」のうち、当てはまる方にチェックを入れてください。

OK / NG



Check R Relevance 関連性：やりがいがありそう！

ものごとに意欲をもって取り組むためには「なぜ努力しているのか」を自分自身で理解して、努力をする甲斐があると感じることが重要です。この「やりがい」を感じることが、関連性を高めることにつながります。

Check



R-1 親しみやすさ (自分の味付けにさせる)

- 対象者が関心のある、あるいは得意な分野から例を取り上げているか？
- 今までに勉強したことや前提条件と教材の内容がどうつながるかを説明しているか？

OK / NG

R-2 目的指向性 (目標に向かわせる)

- 学んだ成果がどこで活かせるのか、この授業はどこへ向かっての第一歩なのかを説明しているか？

OK / NG

R-3 動機との一致 (プロセスを楽しませる)

- アドバイスやヒントは、見たい人だけが見られるように気を付けているか？
- 勉強すること自体を楽しめる工夫を盛り込んでいるか？

OK / NG



Check S Satisfaction 満足感：やってよかった！

せっかく努力しても「大した成果が得られなかった」「無駄に終わった」と不満が残っては、学習意欲を維持させることは難しくなります。先生にほめられる、成果を仲間と互いに認め合うなど、それから得られた満足感が、「もっと学びたい」という次の学びにつながります。

Check



S-1 自然な結果 (無駄に終わらせない)

- 一度身につけたことを使う・活かすチャンスを与えているか？
- 努力の結果がどうだったかを、目標に基づいてすぐにチェックできるようにしているか？

OK / NG

S-2 肯定的な結果 (ほめて認める)

- 困難を克服して目標に到達した対象者にプレゼントを与えていたり（ほめる言葉や認定証など）

OK / NG

S-3 公正さ (裏切らない)

- 目標、練習問題、テストの整合性を高め、一貫性を保っているか？
- 採点者の主觀で合否を左右していないか？

OK / NG